

見て、聞いて、体験して学ぼう“海洋調査”

海の地質学を学ぶ山口大学の大学生を対象に、第七管区海上保安本部所属の測量船による海洋調査体験を実施します。

海上保安庁は、海洋権益の確保、航海の安全、防災・海洋環境保全を目的とした多様な海洋調査を行い、実践による技能を蓄積しています。

山口大学理学部は、幅広い教養と自然科学分野の専門知識や、応用的な分野でも社会に貢献できる能力を身につける教育を行っています。

両者はこれまでも自然科学分野において協力関係を培っており、このたび人材育成への取り組みとして、山口大学において実践海洋学を履修する学生を対象に、海洋調査の多様な技能を学ぶ、第七管区海上保安本部所属の測量船による海洋調査体験を実施します。

○実施日時・場所及び海洋調査体験乗船者

実施日時：令和7年1月17日（金） 午前10時から午後4時30分まで

実施場所：第七管区海上保安本部（福岡県北九州市門司区西海岸1-3-10）

乗船予定者：山口大学理学部学生、大学院生及び引率教員 18名

※なお、荒天等の理由により海洋調査体験を縮小又は中止することがあります。

○海洋調査体験の内容

マルチビーム測深機による、海底地形調査

錘（おもり）を使った、水深調査

採泥器による、海底土採取

○取材について

海洋調査体験及び第七管区海上保安本部会議室で実施の業務説明は、取材可能です。取材を希望される方は、別添の取材申込票に必要事項をご記入のうえ、申込先までお送りください。

【参考】

実践海洋学について

日本は周囲を海に囲まれており、洋上風力発電事業や原子力発電事業、さらにはインターネットで重要な光ケーブルシステムなどは、沿岸から深海での海底ジオハザードの脅威にさらされています。このリスクを軽減するためにも、海底ジオハザードの実態や規模、頻度、分布などを明らかにして、リスク評価につなげなければなりません。ここでは国内外の外部専門家を交えて講義を進め、海底地質リスクの概要やその評価方法について、受講者全員で考えます。なお、この講義は、日本学術会議「持続可能な開発目標達成のための洋上風力発電開発検討小委員会」及び国際地質科学連合「海底ジオハザードタスクグループ」と連携して進められ、国内外の最新のトピックを取り扱います。

この科目は、海洋および陸上の地質調査の実務経験のある技術士（応用理学）を有する教員が担当しており、その経験に基づいた社会ニーズに即した講義を展開します。

測量船とは

海上保安庁は、海洋の科学的調査を行う船舶として測量船を保有しています。測量船にはマルチビーム測深機を始め各種調査機器が搭載され、技術職の海上保安官が乗船し調査に従事しています。第七管区海上保安本部所属の測量船はやしおは、北部九州及び山口県の沿岸海域において、水路測量や海象観測といった海洋調査業務に従事しています。

測量船はやしお



| | |
|------|-----------------|
| 所属 | 第七管区海上保安本部 |
| 番号 | HS26 |
| 長さ | 21.0メートル |
| 総トン数 | 27トン |
| 就役年月 | 平成11(1999)年3月 |
| 船長 | 中野 信秀(なかの のぶひで) |